

《第8回飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録》

日付	平成28年12月10日(土)	14:20~16:00	晴れ	書記	浦田
出席者	委員	井上 峰夫(会長)、野澤 善一郎、村井 康祐(代理:飯島 長男)、鈴木 弘、柴田 実(監事代理)			
		加瀬 功一(副会長)、椎名 英夫、平山 瑞子(監事)、松本 理、鶴野 航三			
	匠瑳市役所	企画課長 太田 和利、まちづくり戦略室長 林 雅之			
	事務局	江波戸、鈴木(九十九里ホーム) 西方、浦田(ミサワホーム)			
<発言者>	<内容>				
井上会長	<p>・開会挨拶</p> <p>大分、皆様の貴重なお時間を遅れてしまいまして、申し訳ございません。</p> <p>この協議会も本日で第8回、そろそろ、まとめていかなければならない時期に入ってきていると思っております。</p> <p>来週、ご都合のつく方はご一緒させていただいて「ゆいまーる那須」を現地視察する予定をしております。</p> <p>暮れの忙しい時期ですが、どうぞよろしく願いいたします。こども園と特養の建設は、県と市とある程度、具体的に進んできております。そこにどういったものを付設して本当の意味で「飯倉駅前地区まちづくり」になるのか、色々なご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>				
事務局	<p>配布資料：第8回飯倉駅前地区まちづくり協議会、厚生労働省HP地域包括ケアシステムより抜粋、各事例紹介</p> <p>1厚生労働省HP地域包括ケアシステムより抜粋資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加 ・多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供 ・地域における互助の取組の推進について ・民間企業等による生活支援の取組の推進について <p>2. CCRC拠点における機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿、生涯活躍の場を作る。・人が集まる、賑わいの創出。・地域の日常生活を支える。 P2~P3 <p>2. 各ゾーン毎の事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てゾーン・高齢者福祉ゾーンにおける事業 認定こども園、延長保育・一時預かり、事業所内保育、学童保育、特養、ショートステイ P4 ・まちなか居住ゾーンにおける事業 サ高住、食堂、病児保育、定期巡回随時対応型訪問介護看護、宿泊施設(リハ対応・移住等) P5 ・交流ゾーンにおける事業① 民間交番・警察立寄所、銀行ATMコーナー、生涯学習施設、障がい者作業所・就労支援、ミニ道の駅 P6 ・交流ゾーンにおける事業② 暮らしの窓口、貸しスペース、地域交流スペース、外来サロン P7 ・その他のエリアにおける事業 駐車場・駐輪場、調剤薬局 P8 ・各事例紹介説明 <p>3. CCRC事例視察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察先：ゆいまーる那須。平成28年12月14日(水)7時45分松丘園駐車場を出発。参加者11名。 P9 <p>4. 次回協議会日程について</p>				

	・1月21日（土）午後3時～ P11
	・各ゾーン毎の事業内容について
A委員	子育てゾーンにおいて、一時保育と延長保育は「特別保育」といわれるものなので（表記を）右肩に寄せて、「認定こども園（幼・保）」と明記されたほうが良い。そのほうが幼稚園と保育園と一緒に認定保育園だということがわかる。このままだと事業所内保育の建物のような印象を受ける。
井上会長	わかりました。ありがとうございました。 子育てゾーンについて、認定こども園は九十九里ホームでやらせていただきます。延長保育・一時預かりは、時間など細かいところはまだ決まっていません。事業所内保育は現在やっているものでいずれこちらに移転したい。学童保育については未定だが是非必要な事業ではないか。高齢者福祉ゾーンは、特養については先ほどお話ししたように進めていきたい。ショートステイは定員20名で九十九里ホームで行う。 まちなか居住ゾーンにおける事業についてご意見ございませんか？
B委員	サ高住の50戸はどうやって匝瑳市の魅力に繋げていくのか。 前回意見が出ていたが（首都圏の特養・サ高住に空きがあるため）都市部も入居しやすくなってきている。 サ高住は移住が前提になる。匝瑳市の魅力作りを発信していかないと、都市部から移住者は難しいと思う。 匝瑳市全体の魅力発信を含めて、まちづくりの中でかなり重要なポイントになる。親の介護の若者に団地に住んでもらうとか、仕組み作りができると飯倉団地を含めたまちづくりに繋がってくるのでは。 今日の新聞の記事に、子供は親の介護に戸惑っているとあった。親の面倒をどうやって見ていくか、それをうまくすくい取っていくことができれば入居促進になるのでは。
C委員	サ高住、私も入ろうかと思うくらいなので良いのでは。
D委員	国勢調査で回った時に、市外に住んでいて、週末にだけ来ている方がいた。また別の方も週末来て、近くの畑で野菜作っている。そういう使い方もあるのかと思った。
E委員	高齢者住宅の対象が50歳以上、50歳といえはまだ働き盛り、実際入る方はもっと上だろうが。 高齢者は一人暮らしが多い。こういう施設があれば孤独老人いなくなるのでは。年齢に対する考え方については、もっと幅広く考えることも必要では。
井上会長	D委員がおっしゃった「家庭菜園」について、事例の説明であった「ホシノタニ団地」は「サポート付き貸し農園」とある。手入れが行き届かない時等、サポートしてくれる人がいると喜ばれるのでは。
F委員	移住してきて、さて何をするかとなったら「貸し農園」は良いのでは。市も市民農園があるから居住者に斡旋するような仕組みを作ったら良いのでは。個人個人の趣向はあると思うが孤独な高齢者が多いので周りと交流がないといけない。こういう団体があるとお互いに協力し合えて良いのでは。
匝瑳市	市の「貸し農園」は現在2つある、飯塚と野栄。（ふれあい農園飯塚・ふれあい農園のさか）飯塚は市外の方も利用されている。野栄はなかなか埋まらない。わからない方に指導する方もいる。地域の方が協力してくれている。
A委員	最近、老人の交通事故が多く、免許証を返還しないといけない話がある。自分に置き換えて考えてみると、75歳なのでもう少し大丈夫だと思うが、そのもう少しが危ない。返還した後を考えるとお店が近くにあったり便利が

	いい所が良いと思う。実は息子に街中の家を譲って、自分はちょっと離れたところに住んでいる。歩いて買い物は30分かかる。元気な方でもある程度、そういう方がいるのでは。
	実際に建物が建って、採算ベースに合うかはすごく大きな問題。理想を広げたいが採算も考えないといけない。
井上会長	簡単な買い物ができるスペースは必要だと思う。
A委員	補助金が絡んでいる時代、金利0.6%、保証協会入れても0.65%、全体の何割補助金が出るかの問題はあるが、認定こども園だと大体半分くらいだとしても、借りても事業ベースに合う。ただだとすると先に進まないのが確実に決断が必要。信用金庫でも1.8%、金利が安いので思い切ってやる必要がある。あまり広げすぎて色々な事業に取り組んで、サービスの要素が強すぎてもいけないし、そうしないとお客が来ないジレンマにかかる。
井上会長	色々な事例、声の中からこういうものが是非必要だというもの、そして我々が取り組んでやって行こうとするもの、一番はこどもの問題と、高齢者が介護が必要になっても安心して住めるというのが本来の目玉。特養は間違いなくやります。訪問系の在宅の色々な機能を持って、飯倉台の住宅も含めて在宅サービスに力を入れてやっていく。その拠点もこの計画の中に入れていいのでは。今問題になっている事に特養の入所の基準が厳しく、よほどの重度にならないと入れないというのがある。実際、ご夫婦で何とか生活されている方が、片方具合が悪くなったら片方も家に住んでられない。そういった人向けにサービスがあると良い。生活していく為に必要な部分がきちんとしていけば、その地域は安心して生活できる、安心して住めるのが良い。また健康寿命を延ばす、リハを取り入れたさまざまな運動など、（制度は無いので実費頂戴しながら）きちんとしたトレーナーを入れることも可能。
G委員	かなり盛りだくさんで、全部取り込めたらすばらしい施設になる。サ高住に関して皆様のご意見をいただいたが、いかに町に魅力を感じて来てくれるか、ここがポイント。成功させる為にはこれから検討していかないといけないが、交流ゾーンで買い物ができたり、娯楽施設などが近くで便利がよいとか近くに貸し農園も利用できるとか併せてここなら来てみようかな、いいところだなと思うように結び付けないといけない。そこがポイント。土地の広さとこの建物がどのくらいの規模で、どのくらいの高さか等、詰め込みすぎてもいけないが、駐車スペースはちゃんと確保しないと利用しづらくなる。駅への動線、バス停までサ高住から濡れずにいけるとか、使いやすく魅力のあるものにしていかないといけない。飯倉台を含めた活用、若い方に住んでもらい、高齢者にはサ高住とかそういったところをもっとアピールしていけば成功するのでは。
井上会長	交流スペースについて、飯高のデイサービスに地域交流スペースがあり、毎週のようにご年配の方がパソコンの勉強をしたり、囲碁や将棋をしていたようだが、最近子供が勉強しにくる。地域の中に施設が溶け込む、そういう機能はやっぱり必要。
A委員	町民会館に子供が勉強しに来る。冷暖房があるし、売店もあるので、勉強しておやつも食べてすごしている。その傾向は図書館でもあり、勉強するのに使っている。腰を痛めたとき、治療後しばらくしてからリハビリになる。そのとき特養には指導員の先生もいらっしゃるの、運動したいと思ったときにロングタオル使った運動等、元気な人ばかりでなくそういったサービス関係のところも設けていただければ。
井上会長	要望はいっぱいあるようで、その中からこれは力を入れてやっていく、これは付随的にやっていく等、もうちょっと具体的に整理してやっていかないと方向が決まらない。14日（水）には「ゆいまーる那須」を見学し、色々ご意見を

	いただいたことについて全部やるわけにも行かないので、もう少し整理をしてやっていく。
A委員	飯倉駅前地区まちづくりの協議の想定期間は、終わりはどうなっているのか。ここまでは何とかしたい年度は？
事務局	サ高住が全部埋まったときか？ 生活支援サービスとかをやる団体があって、それを継続させていく仕組みも考えていけないといけないので。
匝瑳市	施設の整備か、このCCRC構想そのものかで違う。施設の整備はあくまで九十九里ホームさんが主体で行う。 生涯活躍のまちで九十九里ホームさんに貢献していただいておりますが、地域再生法の中で、市町村が地域再生計画を作ります。その中に生涯活躍のまちということでどんな事業を行っていくかの概要を入れます。 最終的に次のステップとして生涯活躍のまち形成事業の内容を、またここでご協議いただくことになるのかと。それを受けながら、今度は市のほうで、生涯活躍のまち形成事業計画をつくります。これによって協議会、市で お互い連携しながら進めていく。事業そのものについてはまず、サ高住になると思います。あくまで生涯活躍の まちは「高齢者の住まい」が一つのキーになっている。東京圏に住んでいる高齢者の方々が地域に移り住んで くるための住まいを提供する、それが今回計画している中では「サ高住」これがキーになります。さらに、 そこに移り住んできた方が地域の方と一緒に自分たちがやりたいこと、或いは地域の活動に加わる、 「そういったことでまちづくりをしていきましょう」というのが生涯活躍のまちづくりですので、いつまで ということはありません。今後は事業主体の九十九里ホームさんが中心になって運営するための協議会を つくっていただくなど、そこで皆さんでまた協議していただきます。
A委員	特養と認定こども園は決まっていると思うが、サ高住の計画はその後なのか。
井上会長	実際には特養と認定こども園を軌道に乗せる必要がある。特養の工事は30年9月には終わる予定なので、サ高住は 特養がオープンしてから色々なことにとりかかる。まちづくり協議会としてある程度、今年度中に方向性、協議会 としての結論を出したい。 12月14日に視察して、次回までにもう少し具体的に詰めたものを作りたいと思います。 次回、1月21日（土）15時でお願いいたします。 色々なご意見いただき、ありがとうございます。 前回お配りしたアンケートの結果を、地元の皆様に回覧板でお渡しいただく様、お願いをしたいと思います。 前回お願いした区長、組長様に依頼状と一緒にアンケート結果をコピーしたものをお送りします。 私どものホームページに飯倉駅前地区まちづくり協議会のページがありますので、そこにアンケート結果も載せ たいと思います。議事録なども載せていきたいと思います。14日当日は、朝は早いですがよろしくお願い致します。
	以上

		次回	1月21日 PM 3:00~